

大島延次郎家文書

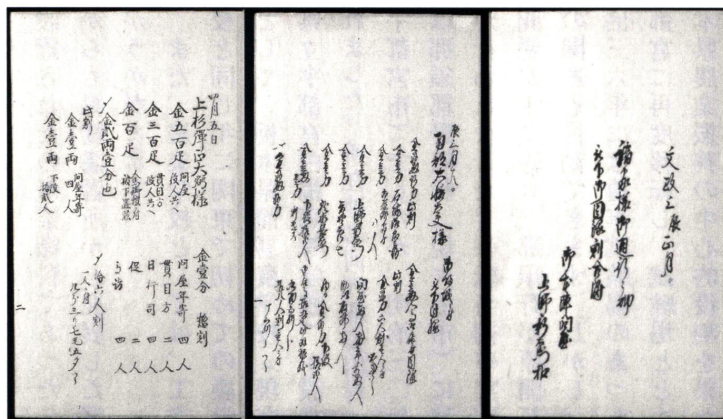
宇都宮市小幡の大島順一氏から八三五九点もの史料が栃木県立文書館に寄託されています。この史料は、日光市立歴史民俗資料館(旧今市市)に貸与、展示されている一部を除いて、大部分は県立文書館に保管されており、利用することができます。

この文書類は、交通史研究の大家として知られる大島延次郎が半生をかけて収集した文書群です。大島延次郎は、明治二十七年今市市轟(現日光市)に生まれました。栃木県師範学校を卒業後一時小学校の教員を勤めましたが、向学の志厚く、日本大学高等師範部、東京高等師範学校に学びました。さらに、昭和四年には三十七歳にして東北大学に入学し、本格的な学究の道を踏み出します。

大島延次郎家文書は、東北大学及び同大学大学院で研究に取り組み中で収集が始められたものです。熱心に史料収集を行ったのは貴重な文化遺産が消滅することに対する危機感からだと、彼は著書『本陣の研究』で述べています。彼が史料採訪した地域は青森県から山口県にまで及んで

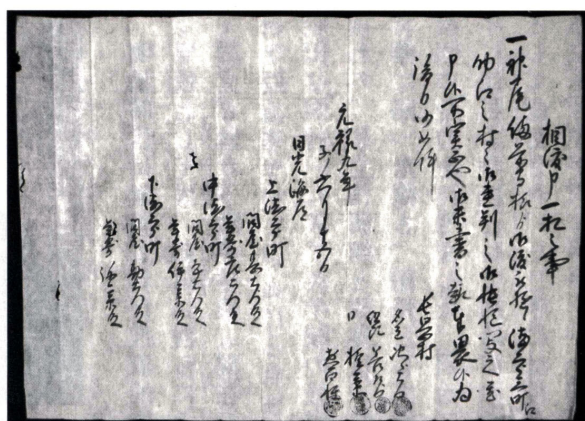
います。史料には東北大学所蔵の狩野文庫を筆写したものとや古書店から購入したものも含まれています。購入したものは主に街道沿いの宿駅を中心に位置する旧本陣から行われました。採訪先は、著書『本陣の研究』の付録「史料採訪本陣表」によれば、二十街道一九九家に達しています。

本陣に残された史料は、大名宿の性格から、諸大名や公家、その姫君や家臣達の通行に関するものが中心となります。



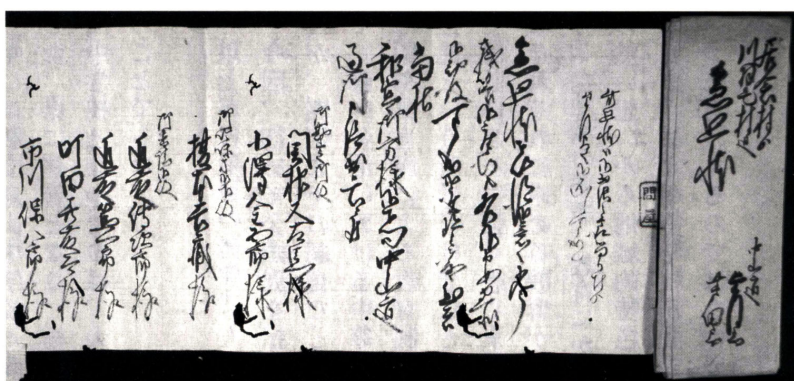
宇都宮の本陣上野家旧蔵の大名通行控 (No.3)

また、本陣は宿駅を束ねる名家であり、問屋場を兼ねることが多かったため、庶民の通行に関する史料や、伝馬、助郷、中馬継ぎ、飛脚、関所、河川の渡しなどの史料も多数含まれています。錦絵、宿絵図、道中案内、宿札などは当時の街道の様子を生き生きと伝えてくれます。また、周辺農村の耕作や凶作、災害など庶民の生活についての史料も見ることができます。



日光街道徳次郎宿への助郷の請書 (No.20)

容的には茶壺道中と和宮降嫁に関する史料が他の街道に比べて特異なものとなっています。



和宮下行のための役人出張の廻状 (No.6940)

史料収集の精粗を見ると、時代や地域によってかなりの違いがあります。地元栃木県の密度が濃いのは当然として、中山道に位置する長久保宿と望月宿の史料が目立ちます。内

大島延次郎家文書は、『栃木県史料所在目録38』として平成二十年度に発刊予定です。栃木県立文書館の開館二十周年記念として平成十九年三月に発行された『大島延次郎家文書図録』と共に広く利用されることを願います。

(安達 常直)